

此の種の神殺によつて射撃的気分を保持せんと致します。これは、或る程度まで必要であるかも知れないのであります。けれども、或る種の神殺が持つて居るにせよ、程度を過ぎずならば、却つて其身體を益ふ如くに、文能も、或る程度を超すに過ぎない者になつて居るのであります。

西洋へ参ります。只今ではアルコールで足らなくつてモルヒネを用ひて居る所があります。私は度々見ました又腕にナイフで以て傷を付かして、そこへモルヒネを注射するのであります。さうしますと、身體が疼る、或は眼が疼る、神經が變になつて來まして、俗に癡癡のやうな状態を示します。或る者はコカインを用ひます。鼻の中へコカインを注射する、或は北支那に向つて、日本から澤山輸出されます。モルヒネの吐きは、やはり其傷に用ひられて居るのであります。支那の國では阿片を根絶致しましたけれども、只今の支那の國の危險は、モルヒネによつて來らんとしつゝあるのであります。

此等らしい傾向は、私共はアルコールによつて最もはつきり分ると思ふのであります。

酒の飲

酒を飲むのに三つの心理があります。第一は酒をいふものが興奮をするからである。第二は酒をいふものが一の魔酔の力を持つて居るからである。第三は疲勞を早く治すからであります。此三の心理的要求によりまして、酒が今日社會に用ひられて居るのであります。私共は勞働階級の住んで居ります。又貧民窟の真中に十數軒住んで居りますから、勞働階級の人達が酒を要求する心理が此三通りであることを能く見て居ります。實際今日の變質したところの文明に於きましては、さうかするに此刺戟を劇烈に求めたい、勞働時間が長い、非常に貧乏の内に、或は困苦の内に、勞働の長時間の内に居りますからして、興奮でもしなければやつて行けない、又早く疲勞を回復したい、又總て魔酔の力を以て人生の苦痛を忘れない、さういふやうな傾向があります。それでありますからして、私は此三つの心理的作用を知つて居りますから、所謂私の精神を吐へるさういふのは、唯一人々々の個人について、及び勞働者諸君に、君は酒をやめたまへとい